

あわの自然学園のあり方の検討状況について

1 経緯

墨田区立あわの自然学園は、昭和53年5月に開設し、毎年、区立小学校5年生が移動教室の宿泊施設として利用するほか、区内スポーツ団体の子どもたちが宿泊し、鹿沼市内のチームとの交流試合の際などに利用している（令和元年度一般利用 527人）。現在、校外学習の教育効果、安全の確保及び更なる効率化を図るため、事業運営等の検討を行っている。

2 課題と検討内容

（1）学習内容充実の必要性

今年度、全面実施された「新学習指導要領」では、様々な体験活動の充実が求められている。体験活動の新たなカリキュラム構築には人的対応や効率的運営に工夫が求められるため、豊富なメニューを有する外部事業者を活用する必要がある。

（2）緊急医療の対策

急な疾病等に対処する診療所は、施設から車で約50分離れた所にある。医師が高齢のため、今後、中長期の診療施設の確保が難しく、医療機関の確保を早急に行う必要がある。

（3）安全性の確保

施設付近のハイキングコースに熊や猪が出没するため、安全確保の点で、複数のコースを用意し、学習カリキュラムを行う必要がある。

（4）効率的運営（費用対効果）

学園の施設運営費は、校外学習の交通費等を含めて年間約6,500万円に対し、使用料収入は年間約30万円程度で大幅な支出超過となっている。

3 今後のあり方について（案）

（1）外部事業者の施設・サービスの活用

民間事業者、独立行政法人等が運営する事業施設及びサービスと現行事業を比較し、上記2の課題を発展的に解決し、学習内容の向上を図る。比較検討の結果は、令和2年度墨田区議会定例会2月議会の子どもの文教委員会での報告を予定する。

（2）今後のあわの自然学園施設の取扱いの検討

仮に、現在のあわの自然学園での校外学習事業を、他に場所を移して実施する場合は、従来から同施設を利用している団体等に対して代替宿泊施設の提案を行う。また、同施設の取扱いについては、区長部局とともに、検討を進めていく。